

明治の女性のことば — NHK番組「女子教育史」から —

遠藤 織枝

1. はじめに

「現在の女性のことばは荒っぽくなっている、ぞんざいである」とは、アンケート調査や識者への質問のたびごとに取り上げられ、コメントされる女性のことばに対する印象、感想である。^(注1)

そうであるなら、また、そのような印象をもたれるなら、その判断の根拠に、それ以前の女性のことばが「荒っぽくなく」「ぞんざいでない」つまり、より優雅でより丁寧であったという認識が働いていたはずである。その現在以前の、近い過去である明治・大正の女性の話しことばの実態を知りたいと常々考えていた。当時の女性の話しことばを反映していると思われる小説の会話文、新聞の談話文などで検討してきたが、書きことば化された話しことばである制約からどうしても抜け出せず、実態との距離を感じていた。

この4月、NHKのラジオ第1放送「ラジオ深夜便」（夜11：10～）で「女子教育史」が放送された。

この番組は最初、1957年に制作、放送されたもので、明治初年から第二次大戦の敗戦までの女子教育史の中を歩んできた慶応、明治生まれの女性34人と男性4人が体験、観察、感慨を述べたものを中心に構成されている。そのテープを再構成して、1995年4月3日から6日までの4夜、各45分間にわたり再放送されたものである。

慶応・明治生まれの人々の1957年の談話を「明治のことば」とするには、やや無理があるが、明治時代に言語形成期を経て、明治時代に青春、壮年期を過ごした人々のことばという意味で、「明治のことば」を考える資料として扱うことはできよう。

以下、「女子教育史」に登場する人たちの話しことばを文字化した資料（以下「明治女性談話」「明治」と省略する）に基づき、分析を進める。現代の女性のことばと比較するために、適時、本誌10号の「共同研究 女性の話しことば—テレビのインタビュー番組から—」（以下「昭和女性談話」「昭和」と省略する）を参照、引用していく。なお文字化に際して縮約形の音韻変化、発声上の強弱や大小など厳密に区別できていないが、今回の調査では、それらの区別は必要としていないと考えている。

2. 「女子教育史」の概要

この番組には女性34人、男性4人が登場し、それぞれの受けた教育について語っている。1957年にこの番組を企画、制作した林小枝子氏の話によると、これら登場する人物は、明治初年創立の各女学校の卒業生名簿や、林氏の母堂の友人であった平塚らいてう氏からの紹介で選んだ人、また、それら選ばれた人が関係者を紹介したり、というふうにして集められた人々である、という。

しかも、その登場する人々が、NHKの取材にいきなり答えるというのではなく、知人友人の紹介ということ、また林氏が前もって訪問し事情をよく説明した後で録音をとったということで、自然な話しことばで取材に応じている。中には背景にせみの声や犬の鳴き声が入っている談話もある。

こうして得た談話を①寺子屋から小学校へ ②女子校のはじまり ③新しい女たち ④軍国の母への道と、4つの時期とテーマに分けて、それぞれ45分の（④のうち15分は下村満子氏と林小枝子氏の対談）放送であった。

登場する人の中には、太平洋戦争期の学徒動員、学童疎開の体験を語る昭和生まれの人もあるが、今回の「明治のことば」の調査対象とはならないので、それらの人々は除外した。調査対象とした慶応・明治生まれの登場人物は以下のとおりである。生年、入学などの情報は番組の中で語られたもの。また、著名な人物については辞書類の記述による。

《女性》

- 話者番号 1. 真野 咲子 明治元[1868]年生まれ
2. 波佐谷美知 慶応3 [1867]年生まれ
3. 福島 たき 慶応3 [1867]年生まれ
4. 井上 美代 明治初年小学校に学ぶ
5. 山田 わか 同上、後に『青鞥』の同人
6. 内海おとめ 創立当時の東京女子師範学校に学ぶ
7. 渡辺とめ子 大山巖3女、米国留学帰りの山川捨松（のち大山捨松）に育てられる
8. 堀 八重 鹿鳴館時代、東京女学校に学ぶ
9. 松岡 久子 『女学雑誌』を愛読。後に『婦人之友』記者
10. 柳原 白蓮 明治18[1885]年－昭和42[1967]年、歌人
11. 星野 あい 創立初期のフェリス女学院に学ぶ。後に津田塾2代目塾長
12. 久布白落実 華族女学校に学ぶ。後に婦人矯風会会長
13. 福来 辰子 明治25年、宮城女学校ストライキ事件で退校になり、のち明治女学校に学ぶ
14. 松岡 鎮枝 明治中期、明治女学校に学ぶ
15. 永井 末子 津田英学塾第1期卒業生
16. 吉田 登志 明治34[1901]年、日本女子大創立を知り上京
17. 丸野 らん 明治34[1901]年、東京女子美術学校に入学
18. 鈴木乃婦子 明治34[1901]年、東京音楽学校声楽科に入学
19. 竹内 茂代 女子医学校第1期卒業生
20. 平塚らいてう 明治19[1886]年－昭和46[1971]年、『青鞥』を主宰
21. 富本 一枝 『青鞥』同人
22. 山川 菊栄 明治23[1890]年－昭和55[1980]年、初代労働省婦人少年局長
23. 神近 市子 明治21[1888]年－昭和56[1981]年、国会議員

- | | |
|-----------|----------------------------|
| 24. 森 律子 | 明治23[1890]年－昭和36[1961]年、女優 |
| 25. 佐藤まつの | 明治20年代、共立職業学校に学ぶ |
| 26. 石田よしえ | 明治30年代、戸板裁縫女学校に学ぶ |
| 27. 能美むつ子 | 明治40年代、日本女子商業学校に学ぶ |
| 28. 志知 文子 | 明治末期、大垣市の女学校に奉職 |
| 29. 山原 鶴 | 明治末期、石川県立高女に学ぶ |
| 30. 町野よしお | 大正初期、福岡県立高女に学ぶ |

《男 性》

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 31. 国分 三亥 | 文久2 [1862]年生まれ、法曹家 |
| 32. 小泉 信三 | 明治21[1888]年－昭和41[1966]年、慶応義塾大学塾長 |
| 33. 柳田 国男 | 明治8 [1875]年－昭和42[1962]年、民俗学者 |
| 34. 国分一太郎 | 明治44[1911]年－昭和60[1985]年、教育家、児童文学者 |

3. 明治の女性の話しことばの実態

3-1 1人称代名詞の使われ方

1人称代名詞について、女性は「わたくし、あたくし、わたし、あたし、あたい」を用い、男性は「わたくし、わたし、ぼく、おれ、わし」などを使うとされる。^(注2)

明治の人たちは放送の談話の中でどのような人称代名詞を使っているか。

今回調査対象とした話者男女34人の使う1人称代名詞は「わたくし、あたくし、わたし、あたし」の4種類である。放送の談話という性質に合わせた代名詞が選ばれていると考えられ、「あたい、ぼく、わし、おれ」など、くだけた場面で使われるものはここには出てこない。

この4種を、より丁寧なものとして「わたくし、あたくし」（以下「わたくし系」とする）、一般的なものとして「わたし、あたし」（以下「わたし系」とする）にまとめて話者別の使われ方を示したのが〔表1〕である。

〔表1〕 1人称代名詞の使われ方（「明治」）

話者番号	わたくし	あたし	計	わたし	あたし	計
女性 1	1	4	5	0	0	0
2	12	1	13	1	0	1
3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	1	2	3
6	1	3	4	0	0	0
7	3	2	5	0	0	0
8	3	1	4	0	1	1
9	12	13	25	2	1	3
10	0	1	1	0	3	3
11	0	3	3	0	2	2
12	0	2	2	1	0	1
13	1	2	3	1	1	2
14	1	1	2	0	1	1
15	1	1	2	0	0	0
16	1	0	1	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0
18	2	3	5	0	1	1
19	1	0	1	0	0	0
20	2	1	3	0	0	0
21	0	0	0	5	0	5
22	3	3	6	0	0	0
23	3	3	6	1	0	1
24	0	0	0	0	0	0
25	0	0	0	2	0	2
26	2	0	2	0	0	0
27	1	1	2	1	0	1
28	4	0	4	1	0	1
29	1	0	1	0	0	0
30	0	8	8	0	0	0
計	55	53	108	16	12	28
男性 31	0	0	0	4	0	4
32	0	1	1	1	1	2
33	0	0	0	1	1	2
34	0	0	0	1	0	1
計	0	1	1	7	2	9

「わたくし系」「わたし系」のうち、どちらがより多く使われるかを話者別にみると、

女性では、

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) わたくし系>わたし系 | 14名 |
| (2) わたし系>わたくし系 | 4名 |
| (3) わたくし系≒わたし系 (差が1のもの) | 8名 |
| (4) 1人称代名詞を不使用 | 4名 |

となっている。

〔表2〕 1人称代名詞の使われ方 (「昭和」)

男性ではどの話者でも「わたし系」を「わたくし系」より多く使っている。

これを「昭和女性談話」と比較してみる。ここでは、「わたくし」に「あたくし」を含め「わたし」に「あたし」を含め、「わたくし」「わたし」の2語の調査をしている。このときの昭和生まれの話者20名の「わたくし」「わたし」の使われ方は〔表2〕のとおりである。

話者番号	わたくし	わたし
S-1	0	4
S-2	0	3
S-3	5	9
S-4	0	6
S-5	0	0
S-6	0	13
S-7	0	1
S-8	0	2
S-9	0	9
S-10	0	13
S-11	18	13
S-12	5	0
S-13	5	3
S-14	0	5
S-15	0	3
S-16	8	4
S-17	13	0
S-18	10	13
S-19	1	12
S-20	9	6
計	74	119

同一話者の「わたくし」と「わたし」の使われ方を調べてみる。

- | | |
|----------------|-----|
| (1) わたくし>わたし | 6名 |
| (2) わたし>わたくし | 12名 |
| (3) わたくし≒わたし | 1名 |
| (4) 1人称代名詞を不使用 | 1名 |

明治では同一話者で「わたくし系」の方をより多く使うのが22名中14名で63.6%であるのに対し、昭和では「わたくし」の方をより多く使う人は19名中6名31.6%と、明治の約半数に減っている。

明治の「わたし系」の方が多いのは4名で18.2%であるのに対して、昭和では12名で63.2%と、明治の3.5倍に増えている。

また、1人称代名詞を2回以上使っている話者の中で、明治で「わたくし系」しか使わない人は8名、「わたし系」しか使わない人は3名であったのに対して、昭和で「わたくし」しか使わない人2名、「わたし」しか使わない人9名であった。「わたくし」、「わたし」の選択がちょうど逆転している。

なお、「明治」の男性4人のうち2人までが「あたし」を使い、話者32は「あたくし」も使用している。男性の話者はわずか4人しか登場していないが、その4人の全使用回10回の1人称代名詞の中に「あたくし」が1回、「あたし」が2回使われていることは注目に値する。すなわち、従来、「あたくし・あたし」は女性専用の1人称代名詞とされてきているが、明治の男性にその使用例がみられることは、1人称代名詞使用の性差が一部縮まることを示すからである。

3-2 「ございます」の使われ方

まず、「明治」の話者1の発話を文字化したものを示す。

- ① あたくしの祖母など(中略)家来に介錯するようになって亡くなったという話でございました
- ② ま、流された人のようなわけでござんしょ?

- ③ 母は、ま、ほんのわずかな家来と子どもをひきつれ、そして、南部に
しばらく、いたんだそうでごんすよ
- ④ それから なんでごんす あたくしが会津へ帰って来ましたのが4
つか5つでごんすかね？

4つの文の文末がすべて「ごんす」を基にした形で終えられている。
このように、レベルの高い丁寧語「ごんす」の使用が目につく。以下
「ごんす」の使用頻度とその使われ方をみる。

3-2-1 話者別の使用状況

話者1のように「ごんす」を多用し、発話全体が丁寧な感じを与える
ものがあるが、明治の人たちに一般的な傾向と言えるのかどうかをその使用
回数を調べて表示する。〔表3〕

文末にくるものばかりではないので、文数との関連は必ずしもないが、発
話量との関連は無視できないので、文数とあわせて示す。

今回の「明治」の女性30人中1回でも「ごんす」を使っている人と、
全く使っていない人が15人ずつで同数であった。男性は4人とも一度も使っ
ていない。

発話文の中の半分以上に使っていたのは話者1、8、26で、これらの話者
は特に丁寧な話し方をしているといえよう。

「昭和」の話者たちの使用状況はどうか。「昭和」はテレビの朝のインタ
ビュー番組であるため、たいてい「おはようございます」で始まっており、
終わりは「ありがとうございました」で止められている。

「明治」でもおそらくそのようなあいさつは交わされたであろうが、番組
ではそれらは省かれ、女子教育史の内容に関するものだけをつなぎ合わせて
編成されている。したがって、比較のためにここでは「昭和」のあいさつこ
とばの「ごんす」は除外して、考えることにする。〔表4〕

[表3] 「ございます」の使用状況(「明治」)

話者番号	文数	ございますの回数	ございますの使用の有無
女性 1	12	8	有
2	64	2	有
3	30	14	有
4	9	1	有
5	52	0	無
6	34	0	無
7	25	10	有
8	29	15	有
9	90	6	有
10	39	0	無
11	48	0	無
12	26	0	無
13	24	4	有
14	28	8	有
15	22	0	無
16	25	0	無
17	17	0	無
18	35	7	有
19	18	0	無
20	19	0	無
21	25	1	有
22	15	0	無
23	37	0	無
24	24	3	有
25	27	0	無
26	12	10	有
27	15	7	有
28	11	0	無
29	14	0	無
30	23	6	有
	※445	102	有15 無15
男性 31	11	0	無
32	8	0	無
33	22	0	無
34	17	0	無
計		0	有0 無4

※「ございます」使用者の発話文合計

〔表4〕「ございます」の使用状況（「おはようございます」「ありがとうございます」を除く）

話者番号	文数	「ございます」の使用回数と使用例		「ございます」 使用の有無
S-1	144	0		無
S-2	71	0		無
S-3	103	1	個室がございましたので そういうことございませんが	有
S-4	83	1		有
S-5	57	0		無
S-6	55	0		無
S-7	64	0		無
S-8	58	0		無
S-9	81	0		無
S-10	58	0		無
S-11	78	2	自分を戒めていたところが ございますけど／とんでもござ いません いいことばかりもございま せんけども、その場にあるっ ていうのはございますよね	有
S-12	106	2		有
S-13	97	0		無
S-14	61	0		無
S-15	83	0		無
S-16	46	0		無
S-17	68	0		無
S-18	46	0		無
S-19	47	0		無
S-20	33	0		無
計	※370	6		有 4 無 16

※「ございます」使用者の発話合計

「昭和」ではS3、S4、S11、S12の4名が丁寧語「ございます」使用の話者ということになる。20名中4名20%が1回ないし2回「ございました」を使っている。「明治」の女性では50%の女性が使え、その回数も全文数中に占める割合いではるかに高い。「ございます」使用の15話者の全文数 445 に対し「ございます」の回数は102回で平均して4.4文あたり1回の使用とな

る。これに対して「昭和」の「ございます」使用は 370文に対して6回で、平均して61.7文あたり1回となっている。つまり「明治」の「ございます」使用は、「昭和」のその約14倍ということになる。

3-2-2 「ございます」の使われ方 < > 内の数字は話者番号

(1) 教科書がございませんから <8>

(2) お習字だけでございます <3>

のように、(1)の「ございます」は「ある」の、「(2)の「ございます」は「だ」「である」の丁寧語である。(1)の場合は助詞を受けて用いられ、(2)では形容詞、形容動詞の連用形に続けて、または「……で——」の形で用いられる。

「明治」の中には、これ以外に、「ますんで」「ましたで」のような語を受けて用いられる「ございます」がいくつかある。

(3) ……服装だっと思いますんでございます <8>

(4) ……一般の人がありましたんでござあます <6>

(5) それからすぐ、片づきましたんでございますよ <27>

(6) 女連は出ませんでございました <3>

(7) ……ということを知りましたでございます <8>

これらは二重敬語として、単なる過剰か誤用か問題になるものである。^(注3)

(6) (7) は現代の共通語では誤用となる用法であろう。話しことばでは過剰敬語になりやすく、これらもその例といえよう。

(8) 着物をとりよせるんでございますよ <7>

の「ございます」の前が動詞「とりよせる」のように常体のもの31例に対し、(3)~(7)のように敬体をうけて二重敬語になっているもの6例で20%近くが二重敬語の例であった。

次につなぎことばの中に使われる例を示す。

(9) 南部にしばらくいたんだそうでござんすよ。そして、なんでござんす、あたくしが会津へ帰ってきましたのが4つか5つでござんすかね <1>

(10) 先生は答を持ってその間を回って歩くんです。その罰は、なんでござ

いますよ、あのー、その、そこい立たせられましてね 廊下に <3>
これらは「ございます」が非常に口になじんだ話者の発話に出てくるもので、「昭和」には全く見られないものである。

3-3 第三者に対する敬語

最近の敬語の傾向として、第三者に対する敬語の使用が減っているとの報告がある。^(注4)

「明治」の話者たちは、インタビューを受けて、自分の受けた教育について、あれこれ語っているが、その話題に登場する人物をどう待遇しているかを。述部動詞句に焦点をあてて考察する。

教育史の番組であるから先生について述べる話者が多いのだが、先生の行為・動作はたいいてい尊敬語で表現されている。(以下、下線 は尊敬表現、~~~~~は非尊敬表現を示す)

- (11) 新しい先生がいらしてね <6>
- (12) 矢島(楯子)先生がね「…続くかもしれない」とおっしゃってね <12>
- (13) (矢島先生は)人間として完成させる道を講じてられる方 <12>
- (14) 巖本先生がお立ちになりますとね、…おやせになっていらっしやいますとね。…青白いお顔なすってね。…おかまいになりませんで。…教育学話してくださいまして <14>
- (15) 成瀬校長のね、書かれました『女子教育』って本読んだんです。校長もしじゅうその三つをお説きになっていなすったんですけども <20>
- (16) 津田先生が、もー、細かくお聞きになるんだ <23>
- (17) 潮田先生お出なってね、…すっかり承知してらっしゃる……お調べになっておくもんだかどうゆうもんだか…。そいで靴をおはきになった。…あれだけの話をきいてもとお思いになったんでしょうね。まだ袂が切れないでっておっしゃったんです。…先生は寝台にねてらした。それからまもなく先生お亡くなりになっました <9>
- (18) この戸板先生はそういうことに目をおつけになったことだらうと <26>

- (19) 嘉悦先生のモットーとなさっていることはね、…そういうことはあまり重きをお置きにならないで……いろいろお考えになって… <27>
- (20) 校長先生がクラスごとにですね。お教えになる。 <30>
先生のほかの人物として 天皇がある。
- (21) 天皇陛下のお出になる行幸を… <8>
- (22) 永久に明治天皇いらして、いただくように思っておりましたのがおかくれになりましたね <14>
政府高官、その夫人や、おじ、おばの動作も敬語で表される。
- (23) 瓜生シゲ子とおっしゃって……その方も英語を教えてくださった <8>
- (24) そこへ大隈さん来てくださって…祝辞をのべてくださるということでおいでになりました… <19>
- (25) 伊藤博文の奥さん、井上さん山県さんの奥さんなどがその舞踏の練習に…よくいらっしゃいました。…馬車でいらしたかと思えますんですよ <8>
- (26) あたくしのおじはね、まーいろいろお考えになって
これら身分が上、年上、目上の人物以外に、学校時代の同輩の動作にも尊敬語を使う例が多い。
- (27) 皆さん着物紋つきでおでになった方もあります。 <8>
- (28) 最高級の尾花梅代さんて方がおりまして…いろいろ読んでくださったんです。 <9>
- (29) 皆さんね、(津田に) いらっしゃる方、いろんな方が来ていらしてね <15>
- (30) 皆さんも若い方でもどどんお歌いになるけど <18>
- (31) お冬さんがお話しになって…。…いちばん年が多くいらっしゃるものですから。皆さんおできになるんで、字は上手にお書きになるし、いろいろなものを学んでいらっしゃるんで、わたしども驚いてしまいました。 <13>
- (32) ○○さんわたしのうちにみえて……入られたわけです。 <22>

〔表5〕動詞句の尊敬表現（「明治」）

特 殊 語 形	いらっしゃる （いる、くる）	22	本動詞 13 補助動詞 9	いらっしゃる 7 いらして（た）6 ～ていらっしゃる 3 ～ていらして（た）2 ～てらして（た）3 ～てらっしゃる 1
	おっしゃる（いう）	7		
	くださる（くれる）	7	本動詞 1	補助動詞 6
	なさる（する）	5	なさる 2	なすって（た）3
	いなさる（いる）	2	補助動詞	～ていなすった 1 ～てなさる 1
	みえる（来る）	1		
	召す（着る）	1		
	ごらんになる（見る）	1		
	おかくれになる（死ぬ）	1		
	計		47	
「 お — に な る — 形	お出になる	3	お調べになる	1
	お帰りになる	2	お世話になる	1
	お立ちになる	2	お立ちになる	1
	おいでになる	1	（目を）おつけになる	1
	「お — に な る — 形	1	おできになる	1
	お置きになる	1	お説きになる	1
	お教えになる	1	おなくなりになる	1
	お思いになる	1	（靴を）おはきになる	1
	お書きになる	1	お話しになる	1
	おかまいになる	1	おやせになる	1
	お考えになる	1	お読みになる	1
	お聞きになる	1		
	計		27	
「 れ る ／ ら れ る 形	歌われる	1		
	書かれる	1		
	入られる	1		
	講じてられる	1	補助動詞部分	
	もってられる	1	同上	
計		5		
合 計		79		

(28) は最高級のと断っているから、同じ学校に学ぶ上級生であるが、他はすべて同学年または同級生のことである。

次に、ここで用いられている尊敬表現を語の側から整理してみる。〔表5〕

(1) 特殊語形を使うもの、(2)「おーになる」の形を使うもの、(3) 助動詞「れる／られる」を用いるもの、の3つのグループに分類できる。敬意のレベルもこの順に高いものから低いものへ移っている。

現在では使わなくなった「明治天皇がおかくれになりまして」(22)や、「校長もしじゅうその三つをお説きになっていなすったんですけども」(15)「おやせになっていらっしゃいましてね」(14)のように、本動詞と補助動詞の両方を尊敬形にする極めて丁寧な表現がみられる。

話者別にみると、30人の話者の中で動詞句で尊敬表現を用いているのが18人、用いていないのが12人、また使用している人の中でも15回と多用しているものから1回のみという人まで、この表現の使用には個人差が大きいことがわかる。

同じようにして「昭和」の第三者への尊敬表現をみる。

まず、先生、師匠への待遇はどうなっているか。

(33) 幼稚園の先生がすばらしい先生でもう亡くなられましたけど (S-17)

(34) 師匠がたとえば女の話をやったらどうだって言ってくれて… (S-7)

(35) 先生が……歌やりなさいということで (S-3)

(33)は「明治」と同じく、先生の動作を尊敬表現で述べているが、(34)(35)は尊敬表現を使っていない。

同輩、友人については

(36) お友達が来たりするときには… (S-7)

(37) 女優さんたちみんな頭をぼうずにして男のかっこうしてね、それでようやく帰ってきたっていうたいへんな思いをしているんですね (S-16)

(38) あの同級生の商社マンの友人がいるん…もとラグビーやっていた… (S-11)

と、尊敬語を使う例は1例もない。

ここで、「昭和」についても使用された尊敬表現を語の側から整理する。

〔表6〕

語の側からみると、「明治」「昭和」ともいけば多く用いられている尊敬語は「いらっしゃる」である。「明治」では78例中22例28.2%であるが、「昭和」では51例中19例37.3%に及んでいる。「明治」では本動詞の使用例が補助動詞のものより多かったが、「昭和」では、補助動詞の使用例の方が多い。「昭和」で次に多い語が「くださる」17例で全体の33.3%。この17例は全て補助動詞の用例である。「昭和」では「いらっしゃる」と「くださる」で36例、全体の70.6%を占め、その中で補助動詞用法が28例、54.9%と、尊敬表現の大半が補助動詞で占められていることになる。「明治」の補助動詞例は17で21.8%である。「明治」では①②③それぞれのグループに分散して、尊敬表現が用いられ、語においてもバラエティーに富んだ使われ方を示している。

語形の面で、「明治」では①特殊語形47例、②「お — になる形」26例、③「れる／られる」形5例であったが、「昭和」では①42例、②1例、③8例である。「明治」で26例33.3%あった「お — になる形」が「昭和」ではわずか1例2%弱になっていること、「れる／られる」形が明治の7.7%から昭和の15.7%に倍増していることが目をひく。尊敬表現の量的減少と同時に質的にも敬意のレベルの低いのを使用する方向に変化していることがわかるのである。

4. まとめ

明治の女性たちの話しことばは、昭和のそれと比べると1人称代名詞でも、丁寧語「ございます」でも、尊敬表現でも、より丁寧であった。一般にそう感じられていたことを再確認したわけである。

では、なぜ明治の女性の話しことばは丁寧で、昭和の女性の話しことばはそれほど丁寧でなくなったのか。それには社会的変化のいくつかの要因が考えられるはずだが、ここではその一つの大きな要因として教育を考えたい。

明治の女子教育は、今回の番組中でも述べられているとおり、「女大学」の伝統をうけつぎ男尊女卑の思想に貫かれるものであった。女生徒のしつけ、たしなみが強調され、その目標は柔順、穏和、貞淑な女性となることであった。

ことばづかいのしつけも、女生徒用修身教科書、国語教科書、書道手本にしばしば登場し、^(注5)繰り返し教育された。女性のことばはより美しく丁寧であるべき、と、女性は幼時からしつけられ、教えられ、体得させられてきた。

このしつけや教えは、現代でも消えたわけではないが、少なくとも戦後の教科書で、女生徒だけのことばづかいを教えることはなくなった。新憲法の男女平等の意識は不徹底ではあれ、国民の意識に入ってきている。こうした男女のあり方の違いが、「明治」と「昭和」の女性の話しことばのありように変化を及ぼさないはずはない。

「明治」の女性のことばが丁寧であった事実は事実として認め、その丁寧さが何に起因するかを考えるべきであろう。

注1 「ことば意識の諸相」(石野博史・丸田 実・土屋 健 『NHK放送研究と調査』90年7月 NHK放送出版協会 P.2-13)

注2 『日本語百科大辞典』(金田一春彦他編 大修館 1988, P.558)、
『国語学大辞典』(国語学会編 東京堂 1988, P.350)など

注3 「敬語の乱れ」(石野博史『続敬語』文化庁 1986, P.48)、『敬語』
(大石初太郎 筑摩書房 1986, P.132)など

注4 「形より心の敬語」(大石初太郎『新しい敬語-美しいことば-』小学館 1983, P.58)

注5 明治33年の『新編修身教典』巻之三、第24課「女子の心得」の二には「言葉つつしみていてねいにもものいふこと」と記されている。同年の『尋常国語読本』巻六、15課「女子の心得」の第二は「女子は言葉をよくつつしみてひかえめにし、かりそめにもはしたなきことなど言ひてのしりさわぐべからず」とある。